

# みつぎ便り

154号  
7月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと  
エコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに  
所属しているボランティア団体「見次の会」です

令和元年7月1日 [https://itbs-ecopo.jp/environsurvey\\_report](https://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report)



## インパチエンス

花壇にインパチエンスを植えました。背の低い株に小さな葉が茂り、ぺたつと平たく開いた花が沢山咲いています。花期は、六〜十月と長く、次々と花が咲き続けて楽しませてくれます。

インパチエンスはアジアやアフリカの亜熱帯から熱帯に多数が分布し、日本でも古くから親しまれているハウセンカ（鳳仙花）も同じ仲間です。通常インパチエンスと呼ばれているのはアフリカ東部原産

のアフリカハウセンカとその園芸種です。寒さに弱く霜の降る頃には枯れてしまうので一年草として扱われます。

原種は緋色、淡紅色、青紫色、白色などですが、園芸品種にはさらに紫色、桃色、薄桃色、オレンジ色、赤色などがあり、各色のバリエーションが多く、いろいろな色味が楽しめます。果実は触れるとパチンと弾けて中の種が飛び散り、果皮はくるりと巻きます。インパチエンスは、ラテン語で「耐えられない、忍耐できない」という意味で、果実の弾ける様から名付けられたようです。（薫）

## ペチュニア

ペチュニアは南アメリカ原産のナス科の植物で、先住民がこの葉をタバコに混ぜて吸っていたことが、先住民の言葉で「タバコ」を意味する花名が由来となったと言われています。

現在の園芸品種には、花の直径が10cmを超える大輪のもの、八重咲きのもの、また花色も赤、白、ピンク、青、黄、



それらの混ざり合ったものなど多くの種類がそろっています。最近では、バイオ技術を利用した品種も出てきて、ますます多種多様になっています。

見次公園では、ボート小屋の近くや機械室近辺で、きれいな花を咲かせています。ペチュニアは、やや雨に弱いところがあるのですが、花壇にも鉢植えにも適し、種類が豊富で長く花を楽しめて比較的に育てやすいことから、なかなかの人気者のようです。（利）